



1964年10月東京オリンピック男子マラソン 力走する円谷

円谷 幸吉

Tuburaya Kokiti

マラソンランナーの円谷幸吉は、昭和15年5月13日、岩瀬郡須賀川町（現在の須賀川市）に出生。高校2年の時、代走で出場した福島縦断駅伝で区間新記録をマーク、周囲から注目を集めます。以降、本格的な陸上競技の道を歩み昭和36年の青東駅伝では、出走した3区間すべてで新記録を樹立。翌年、第1期生として自衛隊体育学校入学。

1万メートルの選手とみられていた円谷でしたが、昭和39年4月の毎日マラソン（東京オリンピック代表選考会）で第2位となり、初マラソンから僅か7ヶ月で、栄光の舞台へ進むことになりました。東京オリンピック最終日の男子マラソンでは、エチオピアのアベベ、イギリスのヒートリーに続き、円谷は第3位の栄冠を獲得しました。記録は自己ベストの2時間16分22秒8。そしてこれが彼にとっての生涯記録となりました。

思いを一つに「サルビアの道」ふたたび

円谷幸吉・レガシーサルビアの会

発足

2018年12月

須賀川市は、東京オリンピック男子マラソン競技銅メダリスト 円谷幸吉 選手の出身地であります。

1964年の東京オリンピックでは、聖火リレーの通過を歓迎し、先輩である幸吉選手を応援しようと須賀川高校生徒会が立ち上がりサルビアを沿道に飾って機運を盛り上げました。その時のサルビアの種を、幸吉選手のお兄さんである喜久造さんが代々育てて今日に至っています。

当会は、幸吉選手の偉業を後世に伝えるとともに、56年前から脈々と受け継がれたサルビアを用いて、東京2020オリンピックを盛り上げる市民運動を展開しています。

これまでの取り組みでは、幸吉選手の後輩にあたる須賀川一小、須賀川一中、須賀川高校の皆様の協力を得て、昨年7月から11月にかけて街なかにサルビアを配置し、「サルビアの道」を復活することができました。3月28日の聖火リレー当日は、時期的に厳しい状況下ではありますが、サルビアで聖火を迎えたいと活動しておりますので、皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

円谷幸吉・レガシーサルビア
の会構成団体：

須賀川市体育協会

須賀川高等学校同窓会

須賀川南部地区町内会協議会

須賀川商店会連合会



1964東京オリンピック聖火リレー須賀川橋上行進 ～須賀川の高校生・サルビアの鉢を持ちながら～

サルビアの育て方

【特徴】

燃え立つような濃い鮮やかな赤色の花が群れ咲く様子は、サルビアならではのもので、印象が強く、秋花壇では主役にもなります。萼（ガク）も美しく色づき、花が散った後もしばらく残るので、長く観賞できるのが特徴です。もともとの原産地（南米）では宿根草ですが、耐寒性がないため日本では一年草として分類されています。ただ、寒さよけさえ確保できれば越冬することもできます。

【サルビアを育てる環境】

サルビアは日当たりと風通しがよく、水はけがよい場所に植えます。

鉢植えのサルビアは、草花用の培養土、もしくはハーブ用の土で問題なく育ちます。開花期間が長いので必ず元肥を入れましょう。

【水やり】

土の表面を見て、乾いていたらたっぷりと与えます。水切れを起こすと下の葉っぱがポロポロと落ちてしまうことがあります、完全に水切れを起こさないように注意しましょう。ただし、乾燥に弱いといっても常に土がジメジメした状態だと根が腐ってしまうので、水のやりすぎにも気をつけましょう。

【切り戻し剪定】

終わった花（花がら）は、まめに剪定しましょう。サルビアの次の花の芽は、花の両脇につきます。終わった花がらをまめに切り取って、次の花にエネルギーが回るようにします。



円谷幸吉・レガシーサルビアの会 活動の様子（移植作業・プランター配置作業）

